

# 2021 年度 シラバス変更科目一覧

2021 年 3 月 24 日現在

○ 総合教育センター科目 教職科目

## 目次

教育実習指導.....	2
-------------	---

区 分	教職科目－教職に関する科目	担当教員	土屋 英男・小川 潔		
授業科目	教育実習指導			授業形態	
英 訳	Guidance of Teaching Practice			複数	
教員の免許状取得のため の必修科目	科 目	教育実践に関する科目			
	施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育実習			
配当年次	4年次 前期	必選別	教員の免許状取得の 必修科目	単位数	1 単位
<b>【授業の目的】</b>					
<p>中学校および高等学校で実施する教育実習の事前教育として、教育の本質的理解に基づいて教育実践のための基本的で確かな手がかりを修得する。また、事後教育として、教育実習の体験を踏まえて、体験全体の総括を行うとともに、実習で気づいた課題を明確にし、目指す生徒の指導体系の構築を図る。</p>					
<b>【授業の到達目標】</b>					
<p>(1) 社会人として必要な教養や教員として必要な資質（教職専門性）を身に付け、確かな人間性の向上を図る。</p> <p>(2) 自ら指導する教科の専門性を、生徒指導が可能な段階にあるか確認し、不足な点を補充する。</p> <p>(3) 学習指導案の作成法を熟知し、それに基づく教科指導の技術を修得する。</p>					
<b>【授業の概要】</b>					
<p>教育実習の事前教育として教師に必要な特質など教育実習に臨むに必要な準備となる資質を修得し、次に学習指導案の作成法や授業展開の技術を模擬授業の実施により学習する。実習後に、その体験の総括として実習を振り返り、実習に対する姿勢や生徒理解、生徒指導などについて自己評価し、それらについて自由に議論し共有する。</p> <p>また、教員への道を目指し、そのために気付いた課題から、課題解決のための計画を立てて取り組む。</p>					
<b>【授業計画と準備学修】</b>					
第 1 回	<p>オリエンテーション、教員への道 ―自らが目指す人生の目標とキャリアー（事前指導）</p> <p>自らの将来を見据え、自分の人生の目標を明らかにしてそれに向かって努力する道筋（キャリア）について考える。その中で、教員に進む意味を自分の人生にどの様に位置づけるのか、その意義はどんなことかを考え、認識する。</p>				
第 2 回	<p>キャリアデザインの勧め（事前指導）</p> <p>自分が送りたいと思う人生を想定し、ライフスタイルを構築する。その中で、教員として生きていくキャリアデザインはどうあるべきか、仕事としての教職にどの様に対処していくべきか、働くことの意義などについて考察する。</p>				
第 3 回	<p>教員の魅力を探る（事前指導）</p> <p>仕事としてみたときの教員の魅力はどんなことか、教員のやり甲斐・生き甲斐は何か、教員という専門職の魅力と特徴はどんなことか、教員になるための資格・資質能力・意思はどんなことかなどについて研究し、学習を深める。</p>				
第 4 回	<p>教育実習の意義と教育の本質との関連性、教育実習履修の要件（事前指導）</p> <p>教育実習の法的・制度的な裏付けを確認し、その意義について考察する。教育実習を教育の本質に基づいてその実践のための手がかりを得るとともに、教育実習はどの様に実施されているのかを理解する。</p>				
第 5 回	<p>教育実習に臨むための準備（1）―教育実習の制度的側面と教師の資質―（事前指導）</p> <p>教育実習で期待される学びや、実習生を送り出す大学側と受け入れる学校側の論理について理解する。次に、教師の資質について、教育実習に行くまでのトレーニングとして学習する。</p>				

第 6 回	教育実習に臨むための準備 (2) 一教職専門性とは何かー (事前教育) 教職専門性が問われる実習生として、学校現場ではどのように扱われ、どのような観点から評価されるのか、実習生の一般的な弱点はどんなことかなどについて学習する。
第 7 回	学習指導案の意味とその作成方法 (事前指導) 学習指導案とは何か、その活用法、その一般的な構成と作成のポイント、上手な作成のコツなどについて学習し、「ダメ指導案」の修正などを実践し、優れた指導案のあり方について学習する。
第 8 回	学習指導案の作成 (事前・事後指導) 学習指導案を実際に作成する。その際様々な指導案を参照し、自らの専門教科に相応しい形式を探して、最初は模倣し、その後修正して完璧な指導案に仕上げる。
第 9 回	学習指導案のレベルアップ (事前・事後指導) 指導案の出来具合のレベルには 3 段階あることを理解し、レベルアップのために必要な要件を知り、作成した指導案をさらにブラッシュアップしての修正を試み、レベル 1 よりレベル 2、さらにレベル 3 を目指して修正を繰り返す。
第 10 回	指導案に基づく授業のリハーサル (模擬授業) (1) リハーサルの意味と試行錯誤 (事前・事後指導) 模擬授業は何のために実施するのかを確認し、授業分析の意義とその実施方法について学習する。
第 11 回	指導案に基づく授業のリハーサル (模擬授業) (2) 模擬授業の実践 (事前・事後指導) 模擬授業をリハーサルして繰り返し、ICT 機器を活用して授業の様子を振り返って課題を発見する。その際、幾つかの重要な観点から授業分析を実施し、より良い試行に結び付ける。
第 12 回	アクティブ・ラーニングの基本と実践 (事後指導) 生徒の生き生きとした思考活動の構築に向けて、アクティブ・ラーニングの意味とそれを授業に導入するために必要な教育手法と実施の留意点、アクティブ・ラーニングの高位レベルについて学習する。
第 13 回	学校や生徒の実態と教育実習の課題 (事後指導) 多層的で予測不可能な教師の仕事にいかに対応すべきか、伝わらない気持ちに向き合うための心構え、学校を多角的に捉えるための努力の方法、よりよい教師キャリアの構築に向けての方策などを学習する。
第 14 回	教育実習の総括 (1) 実習日誌の確認と反省 (事後指導) 各自の教育実習日誌を読み直し、実習時の気持ちを確認して問題点を洗い出し、課題解決に向けて今後どのような努力が必要か、レポートにまとめてみる。
第 15 回	教育実習の総括 (2) 実習日誌から読める自らの成長と今後の人生への活かし方 (事後指導) 実習日誌を読み返し、自らが成長したことはどんな点か確認し、今後の人生においてその成長をどのように活かしていくのか、一方成長しきれなかった事も確認し、今後どのように改善すべきかについて自己評価、意見共有し、今後のよりよい人生に繋いでいく。
<b>【テキスト】</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・各自が教育実習で使用する教科の学習指導要領解説</li> <li>・実習で使用する予定の教科書</li> </ul>	
<b>【参考書・参考資料等】</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習教科に関する資料</li> <li>・実習校で記述・作成した教育実習日誌</li> </ul>	
<b>【成績評価の方法等】</b>	評価が「合」
教育実習日誌の記述内容 (25%)、実習への意欲 (25%)、小レポートや作成した学習指導案 (50%) など総合的に評価。	
<b>【履修要件等】</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・別途開講される教職科目を履修すること。</li> <li>・本授業で実習に不適と判断した学生は実習参加を許可しない。</li> <li>・実習校との連絡を密にし、実習に備えるとともに実習へのモチーフを高めること。</li> </ul>	

